

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	3470205877		
法人名	株式会社 L A T		
事業所名	自適生活ホーム 花もよう		
所在地 (電話番号)	広島市西区庚午北2丁目5番5号 東高須コミュニティホーム (電話) 082-271-1165		
評価機関名	(社)広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町一丁目6番29号		
訪問調査日	平成21年12月10日	評価確定日	平成22年1月4日

## 【情報提供票より】(21年10月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年6月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	16 人
職員数	10 人	常勤 3 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 7.1	

### (2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独	新築 / 改築
建物構造	鉄筋コンクリート造り	
	3 階建ての	2 階 ~ 3 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	49,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(250,000円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	16 名	男性	2 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.6 歳	最低	77 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	下山クリニック・荒木脳神経外科・山本内科循環気器科・正木内科胃腸科医院 大上耳鼻咽喉科医院・山田眼科医院・からさき歯科医院 以上7医療機関
---------	--

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

この事業所では、あえてGHという表現を使っていない。悠々自適の生活を楽しむ「自適生活ホーム 花もよう」と銘打っている。事業部長の言では「お互い加齢に従って心身共に自由が利かなくなる、自由な時間を可能な限り伸ばす支援をしたい」また「ここは決して終の棲家ではない。ここは、みなさまの人生航路の途中の寄港地であり、美しい花が咲く街。みんなこの街で暮らし、希望の花を咲かせてほしい。」と自由と自然な生活を強調している。

このホームの運営母体は造園・建設・都市デザインを主業務とするLAT。園芸療法士を養成する専門学校と連携し、園芸療法の実践＝身体機能の維持回復・作業にやりがいを感じる精神的効果・共同作業によるコミュニケーション効果など＝その成果をケアの現場に活かしている。一人ひとりが素敵な花、いろんな花があっという、そんな花模様のホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価で特別な改善項目の記述はない。地域との交流、関係強化も地道な取り組みで推進されている。何よりも、職員全員の改善意欲の強さが特筆される。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>このホームの『花の彩りを基本にした、改善・自己点検の視点』は注目される。運営母体と連携した造園・設計デザインの感性をこのホームで具現化していく、夢を育てる取り組みである。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>「介護事業こそ究極のサービス業。お客さま商売である。」の視点に立ち、この会議が制度上の形式的なものでなく、親睦交流の深まる参加意義のある運営を図っている。討議内容は、ホームの現状、季節に即したものを基本に、関係地域からゲストを交えての園芸レク・紙芝居・絵手紙教室などなど楽しい雰囲気を出している。夏季にはホームご自慢の屋上ガーデンでそうめん流し、盆踊りなど多彩な行事と連結させている。議事録にも写真を豊富に記載し、楽しさを倍加させる数々の工夫も凝らしている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>ご家族が、このホームのサービスの鏡である。の認識のもと、顧客満足への取り組みとして、ホーム独自のアンケートの実施など、積極的に家族の意見、苦情をくみ取り不安解消に結び付けている。ホーム玄関に意見箱を設置しているが、直接生の声を聴く、話しやすい日ごろの人間関係づくりに留意している。寄せられた意見・苦情等は、上記運営会議での議題に提示している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>このホームには、もう一つ「元気な地域交流の花」が咲いている。ホーム長が、エアロピクスインストラクター・介護予防教室インストラクターであり、地域包括センター等のいきいきサロンの講師として、地域行事の介護予防インストラクターとして活動を深め、街中に元気の苗を植え続けている。ホーム創設時から地域交流強化のコンセプトがあり、コミュニティーホーム、地域交流館、園芸療法を活かした屋上ケアガーデンの諸機能を地域の介護予防に結びつけている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	このホームの名称にもなっている『自適生活ホーム』のように「自宅や地域で悠々自適の生活をこのホームで再現！」と、その具体化に取り組んでいる。とくに、自然との触れ合い、花とみどりを採り入れたケア理念の実践が特異である。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	生命・快適・やさしさ、人ひとりが素敵な花。 [花もよう]の文字とことばから「明るい色が浮かび、見えてくる」という。いま、そんな明るい、健康で花とみどりあふれるホームを、みんなで創り上げようとしている。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	このホームは、運営母体の都市デザインの技法を福祉と結び付け、まちづくりの一環として創設されたもの。 地域のコミュニティスペース・地域交流館などの機能を果たすべく、積極的に地域との交流を推進している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が評価活動に参加し、日々のケアサービスの気付き、改善事項を外部評価と照合し、更なる改善に結びつけている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の議事録に写真を組み込むなど、立体的に編集している。構成メンバーも地域包括・民生委員・家族のほか、町内有志を地域ゲストとして招くなど、地域密着を図っている。併催行事として園芸療法・音楽療法など各種文化教室も採り入れ、開催意義を深める内容としている。		併催行事の開催は、お互いが「参加してよかった。また、次もぜひ参加したい…」と次回の参加につなげる動機付けと参加者メンバーの親睦交流を深める効果を狙っている。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険制度の運用に関する疑問、不明な事項は迅速に市町村の窓口に問合せするなど、齟齬を来たさないよう円滑に相互確認を進めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族あてに毎月「今月のご様子」の連絡便を送付。日々の利用者の暮らしぶりを詳細に知らせしている。とくに、日々の暮らしぶりをあらゆる角度から写真に収め個別にお届けしている。写真技術も洗練され秀逸である。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム独自の家族向けのアンケートも定例化する一方、家族の生の声を聞く家族面談を制度化し、気さくに、なんでも話し合える環境づくりに留意している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人事異動等については、事業所の都合ではなく、異動は最小限に、利用者本位に取り組んでいる。とくに、一人の職員が特定の利用者に関わることをさけ、お互いに助け合う協働生活に力点をあいている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他業種(看護師・作業療法士・理学療法士など)の講師を招いて現場に即したケアを見直す研修のほか、新入職員は、併設のデイサービスで基礎研修を行い、とくに目配り・気配りなど観察力の養成に力を入れている。		職員の育成については「介護技術については、プロ意識で！。一方では素人であれ、家族の視点を大切に・・・！」と、家族の心と視点そして気付き=の養成に留意している。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH事業者交流会への参加。また、個人的な交流を通じて情報収集、情報交換を行い、お互いのホームの前進的な改善に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の思いを受容し、心の安定を図り、ゆっくり時間をかけてサービスの利用の開始に近づけている。 併設のデイサービスの利用から、雰囲気慣れること、入居歓迎会の開催など多様な対応を試みている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	これまで過ごしてこられた生活をとりもどしてあげる。今までやってこられたことを続ける支援を大切にしている。 自由で個性を活かす家族の人間関係を楽しんでいる。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	上記 NO:13 にも関連して、何よりも職員の観察力を強化し、自然なかたちで、特別に着飾った取り組みはしていない。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の意見、要望を積極的にとり入れ、日々の職員の観察を基本に、チームケアとしての総合的な意見を反映して、最適の介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しのほか、状況の変化に応じてカンファレンスやモニタリングを実施して新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者への丸ごとサービス。なんでも対応…。を主眼とし、この事業所に併設の諸事業(デイサービスなど)との連携・複合化から得た気付き・ノウハウを効果的にホームの多機能化サービスに結びつけている。		
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	介護保険制度上の医療連携体制加算の指定を受けており、医師と看護師による週一回の往診と歯科の定期的往診を実施している。 (連携医療機関・協力医療機関 7 医療機関)		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時に家族と重度化・終末期の取り組みについては事業所の方針と家族の要望を調整し、情報の共有化を図っている。いままでのところ、終末期対応の事例はない。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護関連の記録書類・個人情報に類するものは鍵のかかる保管庫に収納管理されている。 利用者との日々の生活では、「言葉が変わらないと、心が変わらない。」とし真の心に寄り添うプライバシー保護のケアを展開している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「お互いに形にはめない、はまらない。」各人のライフスタイルを尊重した、自由で自然な生活、ゆったりとした支援を目指している。		この項目こそ、ホームの愛称「花もよう」の実践の場である。 『一人ひとりが大切な花、いろんな花があっていい、そんな花もようの彩りを大切にしよう。』をモットーに個性を尊重している。 お互いの、四季折々の美しい花を咲かせてほしいもの。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は大事な楽しみの一つ。専門に料理屋さんで修行した職員さんが在職していて、その職員を中心に利用者の口に馴染む、品数の多い家庭的な食事が調理されている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個浴の設備であり、一律化した時間設定でなく、利用者の要望に応じた入浴の支援に取り組んでいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム長の介護予防インストラクターの技能を活かして、多種多様な各々の役割、楽しみ、気晴らしの支援を試行している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	部屋に閉じこもらない。町の生活者として、普通はいろいろな用事で外に出るはず。[とにかく外に出よう。季節の移り変わり、日々の街並みの変化を一緒に見て回ろう]と外出支援をとくに強化している。		「ホーム内、部屋の中だけで、サービスの完結としない」の方針のもと、町の住人としての地域社会との触れ合いを重視し、とくに外出の支援に工夫を凝らしている。
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ドアチャイムによるセンサーを設置し、利用者の安全・防犯に細心の注意を払っている。鍵をかけない開放的な取り組みを基本としている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に管轄消防署の指導の下で災害対策の訓練を実施している。日々、避難路のあり方を意識して、避難通路には障害物を置かないよう留意している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者の嚥下能力に応じた食事を調理し、バランスのとれた栄養管理と水分補給については、1日=1500cc以上を目標に「GH生活状況記録」に日常の心理・健康状況とあわせ詳細に記録し、総括的管理を推進している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	改造型のホームで、構造的制約のある中、運営母体の環境設計・環境デザインの固有技術を活かし、生活感、季節感に配慮した気配りが各所に見られる。		このホームの事業部長も設計デザイナーであり、利用者とともに日々生活を共にしながら、生活実感に即した改良を続けている。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	「我が家、自分のおうち」としてゆったりと温もりのある居室として、自然で自由なレイアウトとしている。 各人の～人生の花を咲かせる環境づくり～をモットーにしている。		

# 介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護  
認知症対応型共同生活介護

事業所名 自適生活ホーム 花もよう(2階)

評価年月日 21年 8月 1日

記入年月日 21年 9月 1日

この基準に基づき、別紙の実施方法  
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 管理者 氏名 坂本 つゆ子

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <b>理念の基づく運営</b> </div> <span style="margin-left: 20px;">2階</span>				
<b>1 理念の共有</b>				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	「一人ひとりが素敵な花、いろんな花があっという。そんな花もよの彩りを大切にします」を理念に掲げ、個々のカラーを尊重している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	一人ひとりとのコミュニケーションを十分に行い、個々の意思を確認しながら介護を実践している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	玄関や階段の踊り場に掲示し来訪時に、目に付くようにしている。家族会や運営推進委員会を通じて取り組んでいる。		家族会や運営推進委員会を通じて取り組んでいる。
<b>2 地域との支えあい</b>				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえようかな日常的なつきあいができるように努めている。す	散歩や買い物などの折に、近隣者と挨拶を交わしている。花壇花を植えたり玄関周りの清掃に心がけ入りやすい雰囲気作りをしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の催し物には、利用者とスタッフが参加させてもらい、楽しませてもらっている。又施設の見学などをオープンに実施している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議に地域の方を呼んで介護に関する相談助言を行なっている。		
3 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	スタッフが自己評価に携わる事で、介護事業の理解を深め、業務の改善に取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議においては、グループホームの現状を報告し、ホームへの理解を得ると共に、事業所の運営にも助言をいただき、サービス向上に活かしている。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	制度上の疑問や不明な点は、迅速に市・区の担当者に確認をとり、また、行政からの通知等は、全職員に回覧し周知を図っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修などに参加し、事業所では研修報告会を行い、全スタッフが研修内容を理解できるようにしている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修で得られた情報をスタッフ全員で共有し、法制度の理解や日常業務での注意点などチームでの取り組みを実施している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者・相談員が、本人・家族と面談を行い、しっかりと意思疎通を図り、理解・納得の上で契約を行っている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	常に利用者様の思いを傾聴し不満や苦情があれば管理者に報告し、カンファレンスを行い迅速に改善している。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月今月のご様子、お小遣い記録、その他連絡事項等を家族に送付している。 健康状態の変化等は、主治医の所見等家族へ随時報告している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営者とご家族との面談を年1回行い、ホームへの不満や苦情などを話しやすい場を設けている。 又、年1回アンケートを実施してカンファレンスや運営会議などで協議し改善している。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的にホーム長が個人面談を行い、指導及び改善を行っている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者に状況変化等があった時は、管理者に報告し迅速に勤務調整の対応を行っている。		毎月早めに職員に休み希望を聞き、できる限り希望にそった勤務調整をしている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮            運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>異動は最小限にしている、又離職した職員の事は、利用者には、不穏を与えない様に配慮している。            又、一人の職員が特定の利用者に関わることを避け、全ての職員が平等に利用者に関わるようにしている。</p>		
<p>5 人材の育成と支援</p>				
19	<p>職員を育てる取り組み            運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>管理者は職員を育成するために、一人一人にあった課題を投げかけ日々の向上に繋げている。外部の研修報告を積極的に行っている。</p>		<p>他職種(リハビリスタッフや看護師など)の講師を招き、利用者の処遇検討および研修を実施している。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上            運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>管理者間での情報交換会に出席したり、他施設の見学などを行い交流に努めている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み            運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>ストレスが溜まらない様に個別に傾聴し、一番良い状態で職務に就けるよう、工夫している。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み            運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>昇格、昇給等で評価している。また勤続表彰制度(3年、5年、10年)を設けている。</p>		
<p><b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p>				
<p>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係            相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>複数回の訪問に加え、施設の事前見学や体験利用などを実施している。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入所前に利用者同伴での見学をお勧めし安心して入所していただける様に心がけている。		入所されるまでの生活を、今までかかわってこられたケアマネージャーに、もっと詳しくお教えしていただく事で、早い段階でコミュニケーションが取れると思う。
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人や家族のニーズに合った支援が可能か、他のサービスの情報や将来的なこと等を相談しながら応じている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならぬように馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居歓迎会を行い暖かく和やかな雰囲気でお迎えしている。入居時の混乱が生じたときは、デイサービスを利用して慣れていただき自然に入居へ馴染めるよう工夫をしている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人一人の生活暦を十分に把握したうえで一人の人間として入居者と介護者が対等関係で対応している。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族には、できるだけ面会に来ていただく様お願いしている。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	本人と家族の関係を十分に把握し、相互の思いを適切に伝える事でよい関係が築ける様支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	これまでお付き合いされてきた友人や知人の話や住んでおられた場所又は仕事等の話に耳を傾けている。		活気無く、寂しそうな表情が見られた時などは、住み慣れた故郷の話聞きだす様にしている、又ホール内は友人知人が遠慮なく違いに来れる雰囲気になっている。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者のこれまでの生活を詳しく把握し、職員が会話の中に入りどの利用者も、楽しく会話できる様、声かけしている。		毎日のレクリエーションは、利用者全員が参加する事で自然と全員揃って当り前の雰囲気を作っている。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院や他施設への移動があっても、出来る範囲ではあるが、見舞や訪問を実施している。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	全ての入居者に対して真剣に向き合い、思いに傾聴、共感し、一人一人の希望に添える様検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家計やケアマネージャーから情報を得てアセスメントをしっかりと取り把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	生活状況記録や連絡ノートを利用しながら一人一人の日課表を作成しケアプランに取り入れている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	利用者、家族の意志を尊重し、全職員の意見を聞き、ケアシートを参照して、計画作成担当者が介護計画を作成している。		ご家族にも積極的に意見を言っていたい。
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状況に応じてカンファレンスやモニタリングを実施している。その折に、本人、家族、関係スタッフからプランの見直しの意見があれば介護計画の更新を行う。		ケアマネージャーを中心に職員一人一人がしっかりと意見を交換し現状に即した計画を立てている。
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	生活状況記録、業務日報、連絡ノートを活用し、情報を出し合いながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
<b>3 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	デイサービスや小規模多機能居宅介護事業も展開しており、多様なイベント企画・参加が可能となっており利用者にとってはメリハリのある生活ができる。		利用者全員が参加したいとの希望を持てるように声かけていきたい。
<b>4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアの協力により、芸能音楽等のイベントを行っている又消防署の立会いで防災訓練を実施している。		



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	必要としている利用者がいないので現在は利用していないが、希望があれば他のサービスが利用できるよう支援を行う。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に出席して入居者とふれあいを持ってもらっている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	ホームでは医療連携体制をとっており医師と看護師による週に1回の訪問と歯科の訪問を実施している。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	精神科医師との医療連携をとっており、利用者の問題行動に関してなど状況の変化に応じて、その都度、相談や診断を仰ぐことができる。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	医療連携による訪問看護の来訪が週に1回あり、利用者の状態のチェックなどを継続して行なっている。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院中でも、スタッフが病院に出向き、医師や看護師・MSWとの連携をとり、タイミングよく退院ができるように支援している。		入院中に洗濯が必要なときはご家族に負担が掛からない様にスタッフが支援している。



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	入居時に家族には、事業所としての基本的な方針を説明して同意を得ている。 重度化や終末期に向けた方針について適切な時期に本人及び家族の意向を具体的に把握しておく。		
48	重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	事業所として決められた支援についてスタッフ一丸となって頑張っている。		重度化した場合の具体的な対応は、かかりつけ医と家族、事業所職員で今後の方針を検討する必要がある。重度化してから家族やかかりつけ医と相談している。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	環境の変化に対して、本人が精神的な安定を喪失しないように、家族・スタッフ共に連携をとり、時間をかけて対応している。		本人が十分納得されるよう、家族が説明する必要があると思われる。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	記録は鍵のかかる所に保管している。日々の小さな行動、言葉かけなども個人の尊厳やプライバシーを損ねる事がないように十分気をつけている。		掃除の際や、居室に用があるときなど、必ず本人の了解をとり入室している。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	集団生活の中で利用者の希望をできる限り表せる様働きかけている。		
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	可能な限り本人のペースで行なう様対応している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	二ヶ月に1度訪問美容室の実施を依頼している。		入浴の際の着替えの服を一緒に決め本人が一番楽な気分で過ごせるようにしている。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	三食ともホームの職員が作っているが、野菜の下ごしらえや配膳、食器の片付けなど、本人が出来る事は一緒に行っている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	夏祭りの時のみノンアルコールのビールを飲用してもらっている。おやつは、利用者全員で一緒に食べていただくことで、より和やかな時間になるよう支援している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	なるべくトイレでの排泄ができるよう、利用者個々の排泄リズムを考え、トイレ誘導を実施している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	個室のため、一人ひとりスタッフが介助し、ゆっくりと入浴を楽しんでもらっている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	絶対にこちらの都合で就寝を促す事がないように、利用者一人一人にあった時間に就寝していただいている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活暦を把握した上で、台所の仕事や、洗濯物を干したり、たたんだり、常に利用者様が求められる仕事を提供している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	小遣いを家族から預かり管理している。お金を所持する事を必要とされている利用者様がおられない為スタッフが出し入れをしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	ホール内では運動量が少ない為、毎日屋外の散歩にお誘いしている。少しずつ歩行距離が伸び、筋力も付いてきている。		花もようで日常生活を送っていただく基本としてすべての入所者様の散歩を習慣化する時々拒否される事もあるが、あの手この手を使い声かけしている。今ではどの利用者も散歩を楽しまれるようになった。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	春の花見、秋の遠足を毎年実施している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人からの要望があれば、スタッフが家族に電話し、取り次いでいる。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	時間の制約は無く、いつでも気軽に訪問できる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践            運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>スタッフが研修に参加し、拘束に関する知識を全スタッフで習得すると共に、日々の実践のなかで、スタッフ相互間で注意をしている。</p>		
66	<p>鍵をかけないケアの実践            運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>居室には鍵はかけていない。玄関ドアは、状況により、施錠するときがあるが、通常はドアチャイムがなるセンサーで対応している。</p>		
67	<p>利用者の安全確認            職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>本人の意思確認をしながら、見守りをしている。</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理            注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>所持品については、本人・家族とよく話し合い納得を得て決めている。保管・管理には、スタッフが関与する。</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み            転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>研修や訓練に参加し意識を高める様になっている。</p>		
70	<p>急変や事故発生の備え            利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。</p>	<p>急変時には、管理者・医師・看護師などへの連絡体制を整えている。また、一部のスタッフは研修等に参加しており、他のスタッフとの知識の共有を図っている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>消防署の指導のもとで定期的に避難訓練を実施している。ベランダに物を置かないように気を付けている。</p>		
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。</p>	<p>入所時や本人の状態の変化に応じて、その都度、家族にリスクについて説明し理解を得るようにしている。スタッフはリスク回避のための検討を常に行なうようにしている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	<p>体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>スタッフ間での情報の送りや、管理者への報告、医療スタッフとの連携を速やかにとるようにしている。</p>		
74	<p>服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>薬の管理は厳重に行なっている。また、本人の体調を見て、医師・看護師の指示を仰ぎながら、適正な投薬が行なえるよう支援している。 医師の指示により薬が変わったときは連絡ノートを活用し全スタッフが服薬について理解するよう努めている。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。</p>	<p>毎日の排便チェックを行なっている。食べ物の工夫や、水分量のチェックもこまめに行い、更に歩行していただくことで腸の動きがよくなる様にしている。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後口腔ケアを実施している。(声かけや介助による) 歯科医師や歯科衛生士による定期的な療養管理も実施している。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの嚥下能力に応じた食事を用意し、バランスよく食べ物が摂取できるようにしている。また、一日の水分摂取量をチェックし、記録している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症のマニュアルを作り、具体的にどうしたらよいかスタッフ全員で学習している。それぞれの感染症についての対策を十分に理解している。また、日頃から、全スタッフはうがい・手洗いを励行している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食器や調理器具は熱風乾燥を行なっている。食材に関しては細心の注意をはらい、買い物を頻回に行い、新鮮な素材を調理している。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関先の花壇や、プランターには季節の花が植えてある。又長いすを置き散歩時に休憩できるようにしてある。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	我が家で暮らしている雰囲気味わえる様工夫している。 リビングやテーブルの上には観葉植物や花などを置き楽しんでもらっている。観葉植物から伸びていく根を見て、会話が弾んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングの色々な場所に椅子やソファを置き、誰もがくつろげる空間を設けている。		壁には季節ごとに飾り付けを変え、どの場所からも目で楽しんでいただけるよう工夫している。
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は、ベッドを置いても、ダンスやイスなどを置くスペースがあり、ゆったりと過ごせる空間がある。クローゼットもあり、今まで使用した小物などは持ち込みできる。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	閑静な住宅地の一角にあり、窓の開放ができ、空調も各部屋やリビングなどに数箇所あり、細かく室温調整が出来るようになっている。		冬は居室の暖房を使用すると乾燥するため、濡れたタオルを掛けるなどして対応している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内部はリビング、ホール、トイレ、風呂と全てに手すりを取り付けてある。又居室は必要な方のみ手すりを取り付けてある。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	自室やトイレの場所がわかるように、表示を工夫している。		
87	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	屋上で園芸レクリエーションを行ったり、食事やお茶を摂ったり、軽い運動をしていただいたり、それぞれに楽しめる場所になっている。		毎年夏には屋上で恒例の夏祭りが、ご近所、家族も一緒に盛大に開催される。

# 介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護  
認知症対応型共同生活介護

事業所名 自適生活ホーム 花もよう(3階)

評価年月日 21年 8月 1日

記入年月日 21年 9月 1日

この基準に基づき、別紙の実施方法  
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 管理者 氏名 平田 則子

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;"> <b>理念の基づく運営</b> </div> <span style="margin-left: 10px;">3階</span>				
1 理念の共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	「一人ひとりが素敵な花、いろんな花があっいいい。そんな花もよの彩りを大切にします」を理念に掲げ、個々のカラーを尊重している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	一人ひとりとのコミュニケーションを十分に行い、個々の意思を確認しながら介護を実践している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	運営推進会議に家族や地域住民の参加を仰ぎ、事業所との交流を図っている。		
2 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。	散歩や買い物などの折に、近隣者と挨拶を交わしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域のイベントや近隣の商店での催しに積極的に参加している。施設の見学などをオープンに実施している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	スタッフの専門的な知識を活かし、地域事業において、講師などの派遣を行っている。運営推進会議に地域の方を呼んで話し合い取り組んでいる。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	スタッフが自己評価に携わることで介護事業の理解を深め業務の改善に取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議においては、グループホームの現状を報告し、ホームへの理解を得ると共に、事業所の運営にも助言を頂きサービスの向上に活かしている。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	制度上の疑問や不明な点は、迅速に市、区担当者に確認をとり、また、行政からの通知等は、全職員に回覧し周知を図っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修などに参加し、事業所では研修報告会を行い、全スタッフが研修内容を理解できるようにしている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修で得られた情報をスタッフ全員で共有し、法制度の理解や日常業務での注意点などチームでの取り組みを実施している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者・相談員が、本人・家族と面談を行い、しっかりと意思疎通を図り、理解・納得の上で契約を行っている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	家族が来訪時などにホームへの不満や苦情があればスタッフが聞き取り、必要に応じて、管理者や運営協議会への報告を行うようにしている。定期的に家族会を実施している。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	「今月のご様子」を毎月ご家族に送付しホームでの生活をお知らせしている。また、医師・看護師からの指示があればその都度連絡を取っている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族の面会時に要望をお聞きすると共に年一回の家族アンケートを実施しカンファレンスや運営会議などで必要なことは改善している。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	朝のミーティングやカンファレンスでの職員意見があれば、管理者は、運営者を交えて、面談をするようにしている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	管理者が、業務調整が容易にできるよう、職員相互の良好な関係が築けるよう職場の雰囲気作りに配慮をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	良好な職場環境を作り、なるべく職員の移動をなくしている。また一人の職員が特定の利用者に関わることを避け、全ての職員が平等に利用者に関わるようにしている。		
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部の研修情報提供を積極的に行い、内部ではカンファレンスなどを活用し全スタッフの知識の向上を図っている。また、ステップアップの為に資格取得には支援をしている。		多職種(リハビリスタッフや看護師など)の外部講師を招き、利用者の処遇検討および研修を実施している。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管理者及び職員はグループホーム事業者交流会に参加している。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職場の悩みなどがあれば、気軽に管理者に相談できる雰囲気作りには配慮している。		親睦会の開催予定(カラオケなど)あり。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	運営者は、定期的に管理者との面談の機会をもち、職員の勤務状況を把握するようにしている。また、職員のモチベーションの向上につながるよう声かけをしている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	複数回の訪問に加え、施設の事前見学や体験利用などを実施している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	本人や家族との面談により、どこに不安があるのかを的確に察知し、対応を行うようにしている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ホームの利用のみにこだわらず、本人・家族の要望にあったサービスの説明と情報提供を行うようにしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならな馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	家族との連携を密にし、本人が無理なくホームの生活に馴染めるよう配慮する。特に生活に慣れるまでは、本人の気持ちを受容し、精神的に安定できるようにする。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔の生活習慣を教えてもらったり、旧漢字などの読み方を聞くなどして、双方向で対等な関係で対応している。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜ぶ哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族とのコミュニケーションを大切にし、利用者の情報を共有し、一緒に介護をしているという認識をもってもらようにする。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	家族暦を十分に理解し、第三者が介護を担うことにより、家族に精神的ゆとりが生まれ、利用者との関係がよりよいものになるように心がけている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人や知人の来訪を歓迎し、またこれまでのかかり付け医への受診などを支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	食事の席順やレクの実施の際などには注意を払い、関係が悪化しないように職員が見守りを行っている。また利用者同士の協力が必要なゲームなどを行いよい関係が出来るよう配慮する。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院や他施設への移動があっても、出来る範囲ではあるが、見舞や訪問を実施している。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	全ての入居者に対して真剣に向き合い、思いに傾聴、共感し、一人一人の希望に添える様検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時のインテークにより、生活暦などを十分に把握し、全スタッフに周知し環境の変化に対応できるよう支援している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	本人・家族からの面談や入所前の介護情報などを詳細に収集し、入所前にスタッフで情報の共有化を図っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人・家族同席して関係スタッフが集まりサービス担当者会議を開き介護計画を作成している。 必要に応じて医師や看護師の参加を依頼することもある。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状況に応じてカンファレンスやモニタリングを実施している。その折に本人・家族・関係スタッフから、プランの見直しの意見があれば、介護計画の更新を行う。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の生活記録や支援経過記録は、必ず担当者が記録し、全スタッフが目を通すようにしている。また、必要があれば、カンファレンスで協議し、サービス実施計画や介護計画の変更を検討する。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	デイサービスや小規模多機能居宅介護事業も展開しており、多様なイベント企画・参加が可能となっており利用者にとってはメリハリのある生活ができる。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域のボランティアによるイベント開催や、地域行事への参加など社会とのつながりを大切にしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	他職種の担当者（近隣の事業所ケアマネや福祉用具担当者など）との連携をとり、利用者の多様な要望に対応できるようにしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営協議会への出席を仰ぎ、情報交換や連携をとっている		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	本人・家族の意向を尊重し、受診の支援を行なっている。また、当該ホームでは、医療連携体制をとっており、医師と看護師による週に1回の訪問を実施している。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	医療連携をとっており、利用者の問題行動に関してなど状況の変化に応じて、その都度、相談や診断を仰ぐことができる。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	医療連携による訪問看護の来訪が週に1回あり、利用者の状態のチェックなどを継続して行なっている。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院中でも、スタッフが病院に出向き、医師や看護師・MSWとの連携をとり、タイミングよく退院ができるように支援している。		



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有            重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>事業所の方針を説明し同意を得て対応している。また協力医と連携し最良な選択ができるよう関係者で協議している。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援            重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>ホームでの「看取り」も状況によれば可能だが、スタッフのスキルアップやメンタルな面でのフォローなど人生の終焉を支えられるよう努力している。</p>		<p>病院のような 24 時間の医療の見守りは不可能なため、限られた医療体制のなかで、本人・家族・スタッフがどのように判断していくかは、今後の検討課題となる。</p>
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止            本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>環境の変化に対して、本人が精神的な安定を喪失しないように、家族・スタッフ共に連携をとり、時間をかけて対応している。</p>		
<p style="text-align: center;"><b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1 その人らしい暮らしの支援            (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底            一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>記録は鍵のかかる所に保管している。            個人の尊重を第一に考え、利用者一人ひとりの情報は個人のものであることをスタッフ全員に周知している。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援            本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者とのコミュニケーションにより、本人の感情表出を促し、自己決定を大切に日常生活が送れるよう支援している。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし            職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>集団生活の中で可能な限り個人の意思を尊重できるようスタッフ全員が対応している。</p>		<p>外出の願望や、食べ物の嗜好など、聞き入れられるように配慮している。</p>

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	事業所から、2ヶ月に1度訪問美容室の実施を依頼しているが、個人で行きつけの業者があれば、利用できるような支援をしている。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	三食ともホームの職員が作っているが、野菜の下ごしらえや配膳、食器の片付けなど、本人が出来る事は一緒に行っている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	買い物に行く折には、それぞれの好みを聞き、体調を考慮しながら、提供している。現在飲酒をされる利用者はないが、希望があれば、考慮する。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	なるべくトイレでの排泄ができるよう、利用者個々の排泄リズムを考え、トイレ誘導を実施している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	個室のため、一人ひとりスタッフが介助し、ゆっくりと入浴を楽しんでもらっている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	夜間のテレビ視聴も可能だが、昼夜逆転にならないように速やかに入眠できるよう、スタッフが対応している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	毎日のレクリエーションや季節の行事などを計画し、その中で得意なことをそれぞれが楽しめるようにしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	計算能力のある方には、買い物に出かけた折には、小額の手落ち金を所持してもらい支払をしてもらっている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	ホーム周辺の散歩や、近くの商店への買い物などに、お誘いすると共に本人の希望に添って外出を行っている。		花もようで日常生活を送っていただく基本としてすべての入所者様の散歩を習慣化する 施設内引きこもりにならぬよう、また、社会性の維持に努める
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	春の花見、秋の遠足は実施している。		外食や少し遠方へのドライブなどを企画検討している
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人からの要望があれば、スタッフが家族に電話し、取り次いでいる。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族や友人の来所には、時間の制約もなく、自由に応じている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	スタッフが研修に参加し、拘束に関する知識を全スタッフで習得すると共に、日々の実践のなかで、スタッフ相互間で注意をしている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室には鍵はかけていない。玄関ドアは、状況により、施錠するときがあるが、通常はドアチャイムがなるセンサーで対応している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	本人の意思確認をしながら、見守りをしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	所持品については、本人・家族とよく話し合い納得を得て決めている。保管・管理には、スタッフが関与する。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	訓練などで、非常時に備えている。日頃から、リスクの高い人は、処遇を検討している。		職員研修などでも、非常時の対処の仕方のマニュアルなどを話し合っている。
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	急変時には、管理者・医師・看護師などへの連絡体制を整えている。また、一部のスタッフは研修等に参加しており、他のスタッフとの知識の共有を図っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の指導の元で、避難訓練を実施するとともに、全体会議等で防災に関する教育訓練を行っている。避難路となる階段やベランダに物を置かないように気を付けている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	入所時や本人の状態の変化に応じて、その都度、家族にリスクについて説明し理解を得るようにしている。スタッフはリスク回避のための検討を常に行なうようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	スタッフ間での情報の送りや、管理者への報告、医療スタッフとの連携を速やかにとるようにしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の管理は厳重に行なっている。また、本人の体調を見て、医師・看護師の指示を仰ぎながら、適正な投薬が行なえるよう支援している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	毎日の排便チェックを行なっている。野菜やヨーグルトなど食べ物の工夫を行なうと共に、水分量のチェックなども行い、便秘予防に努めている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後口腔ケアを実施している。(声かけや介助による) 歯科医師や歯科衛生士による定期的な療養管理も実施している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの嚥下能力に応じた食事を用意し、バランスよく食べ物が摂取できるようにしている。また、一日の水分摂取量をチェックし、記録している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	感染症のマニュアルを作り、具体的にどうしたらよいかスタッフ全員で学習している。それぞれの感染症についての対策を十分に理解している。また、日頃から、全スタッフはうがい・手洗いを励行している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食器や調理器具は熱風乾燥を行なっている。食材に関しては細心の注意をはらい、買い物を頻回に行い、新鮮な素材を調理している。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前には、花壇が設けてあり、「花もよう」の名前のとおり、季節の花が植えてある。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	個人住宅用の造りになっており、我が家で暮らしている雰囲気味わえるよう工夫している。リビングやテーブルの上には季節の花を飾り楽しんでもらっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	イスやソファーなどにより、自由にくつろげる空間を設けている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は、ベッドを置いても、タンスやイスなどを置くスペースがあり、ゆったりと過ごせる空間がある。クローゼットもあり、今まで使用した小物などは持ち込みできる。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	閑静な住宅地の一角にあり、窓の開放ができ、空調も各部屋やリビングなどに数箇所あり、細かく室温調整が出来るようになっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室や廊下の手すりの設置はもちろん、トイレなどには、ADLのレベルに応じて手すりが使用できるようになっている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	自室やトイレの場所がわかるように、表示を工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	屋上を庭園風にアレンジし、簡単なトレーニングも出来るように器具を設置している。また、季節の花を鉢植し、利用者全員で生育を楽しんでいる。		